

令和4年12月6日

# 人権フェスティバルで大ヒット映画の続編を上映

～「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」～

## 1 要旨

「2022 たけはら人権フェスティバル」の人権啓発市民講座として、「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」を上映します。本上映を通して、人権への理解の浸透を図ります。

## 2 映画上映概要

### (1) 日時

令和4年12月11日(日) 13時30分～15時30分 (開場12時30分～)

### (2) 場所

竹原市民館ホール(所在地:竹原市中央五丁目5番24号)

### (3) 映画内容

2018年に動員20万人を超える大ヒット作となったドキュメンタリー映画の続編。認知症の母と老老介護する父の暮らしを、娘である信友直子監督が丹念に記録したドキュメンタリー映画で、日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままにかつ、時にユーモラスに綴られ、相手を思いやり共に生きる社会について考えることができる作品です。

### (4) その他

- ・ 参加費, 申し込みは不要です。
- ・ 本上映は地域人権啓発活動活性化事業として実施します。

問い合わせ

市民福祉部 地域づくり課 人権男女共同参画係 担当: 國竹

T E L 0846-22-3726 F A X 0846-22-7748

元気と笑顔が織り成す 暮らし誇らし、竹原市。

**映画  
続編!**  
2022年3月25日公開!!

2022 たけはら人権フェスティバル  
「人権啓発市民講座」  
地域人権啓発活動活性化事業

**12/11(日)**  
**竹原市民館ホール**  
**13:30~**

2018年に動員20万人を超える大ヒット  
日本中を深い感動で包んだあの物語には続きがあった!

アルツハイマー病を患った母を  
98歳になった父が賢明に介護する日々  
そんな中、新型コロナウイルスの波が押し寄せて  
事態は急変する。



**入場無料! 申込み不要!**

**日本語字幕付き**

上映時間  
101分

**駐車場**

※指定の駐車場をご利用ください。商業施設への駐車はご遠慮ください。  
(指定駐車場: 市役所駐車場・市職員駐車場・たけはら合同ビル駐車場・ハローワーク竹原駐車場)

監督・撮影・録り  
& ひとり娘  
信友直子

ぼけますから、  
よろしく願いします。  
～おかえりお母さん～

母が認知症になっても、父は変わらぬ愛を注ぐ  
結婚生活60年を過ぎた90代夫婦の生きる道

2022年/日本ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2Dch 監督・撮影・録り:信友直子 プロデューサー:湯浅 大昌 演出:相澤友紀子

編集:目見明雄 撮影:南幸秀、河合静久 監製:全田智子 ライン編集:池田 潤 監修:宮次重一 製作プロダクション:スタッフアビ

制作:フジテレビ ネットン 関西テレビ 信友家 配信:配信:アンプラグ © 2022「ぼけますから、よろしく願いします。～おかえりお母さん～」製作委員会 www.ukensou.com



**【主催】**  
**竹原市**

**【日時】 12月11日(日)13:30~ 【場所】 竹原市民館ホール**  
※上映前に「中学生人権作文コンテスト表彰式」があります。 **(開場 12:30)**

**問い合わせ** 地域づくり課 人権男女共同参画係(竹原市人権センター内) ☎(0846) 22-7736

© 2022 「ぼけますから、よろしく願いします。～おかえりお母さん～」製作委員会

人が生きて老いてゆく先には、  
必ず死と別れがあります。  
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。  
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。  
今回もまた、誰もが自分のこととして  
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)

ロコミが広がり異例のロングランになった  
『ぼけますから、よろしくお願ひします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り、日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願ひします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——



「2018年。父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。」



ぼけますから、  
よろしくお願ひします。  
～おかえりお母さん～



監督・撮影・編集：信友直子 プロデューサー：渡岡 大島新 脚本：橋本友紀子 編集：目見田健 撮影：南中男 河合真久  
美術効果：金田智子 ライン編集：池田瑞 監音：高木憲一 製作プロダクション：スタッフラビ 製作：フジテレビ ネットゲル 関西テレビ 信友家 配給・宣伝：アンラグド  
© 2022「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえり お母さん～」製作委員会 2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch

bokemasu.com @bokemasukara2

(C) 2022 「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」製作委員会

問い合わせ 地域づくり課 人権男女共同参画係 (竹原市人権センター内) ☎(0846) 22-7736

※新型コロナウイルス感染防止対策にご協力ください。(検温・マスク着用・アルコール消毒液による手指消毒)